



エントリー競馬場の正門



ウスター競馬場、レース後の枠場風景



ウスター競馬場のレース風景

世界旅打ち気分

●第44回・ウスターとエイントリー

須田 鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/> の
#グリーンファーム会報#2022年4月号
でご覧いただけます

なつてゐる。私が訪れたのも4月だった。そこでその年のオープニング催、それゆえ屋台なども出て賑わつておらず右も左も分からぬ感じだったのだが、特にレースブック（プログラム）を売つてゐる場所が分からず難儀したのを覚えている。いまなら勘で見つけられるだろうが、当時は本当に見つからなくて検量近くにいた紳士に相談した。すると「待つてろ」と言つて事務所から1冊持つてきてくれたのだった。いきなり来た怪しい東洋人に對する親切が身にしみたものであつたのかかもしれない。

印象に残っている」とのもうひとつが、帰りの車内。途中駅でラグビーチームみたいな屈強な男の軍団が乗ってきて、酒盛り＆大騒ぎを始めた。文句を言ったところで絶対喧嘩では勝てないような屈強軍団なのでひたすら我慢したのだが、後で「クワイエットカー」というものの存在を知った。静かにしまし

場にグランジナンショナルも見に行つた。なにしる乗り放題バスだから、毎日ロンドンから遠い場所の旅打ちに行くことも可能なのだ。

ロンドンからエイントリーに近いリバプールはかなり距離があるが、主要都市どうしは速い特急で結ばれているので、意外と日帰りがしんどくない。ロンドンのユーストン駅から直通の特急があり、片道2時間15分ほどで着く。

鉄道旅として覚えていることのひとつが、リバプールから先の鉄道がストで運休になっていたこと。またまのかグランジナンショナル当日を労組が狙つてなのかは分からぬが、後者のような気がする。

ただリバプール駅から競馬場まで送迎バスが出ており、不便はないからだ。むしろ最寄り駅から競馬場まで

ントン～ヨーバリーは約1時間だが普通車のみ)、長距離と呼べる区間にはたいてい付いている。内装

イギリスの鉄道はピークとオフピークで全く値段が違つたり、ファーストクラスの値段がいきなり高いことがある一方で安いこともあります。たとえば、乗車料金を例としてロンドン・パディントン駅からバスなら一度買うだけ。たまに「アーバンカード」を購入すれば、バスや地下鉄、電車など公共交通機関を乗り回すことができる。また、オフピーク時間帯に運行する夜行列車は、普通車よりも座席が広く、ゆったりとした空間で寝ることもできる。

と、誰かが指定席として買った席にはリザーブドの紙が刺さっている。それが無い席に座ればよい。よほど繁忙期・繁忙路線でない限り、乗ったはいいけど席が無いといふことはない。

バージョンだと6万6200円といつた具合である。
もちろん2等の方が安いのだが、遠隔地に行く場合は断然1等が、(アーストクラス)をおすすめする。イギリスの鉄道は1等の車内アコモデーション(椅子などの内装)が日本のグリーン車以上に良く、距離の遠いところに行く場合に威力を発揮する。
バスの使い方は簡単。ヴァリティーとついて、バスの使用日を刻印する機械を通してだ。車内に行く

イギリスの中でもさすがにエディンバラとかそういうレベルの北になってしまってロンドンからの日帰りは無理(ちなみに片道6時間とかかかる)だが、さくらり言つて「南半分」は鉄道日帰り圏内。列車を一本逃すと致命傷になるが、しつかり予習をしていけばフリーパスでロンドン起点の「毎日旅打ち」が楽しめる。

ようという車両と、騒いでいい車両が分かれているのである。同じファーストクラスでもクワイエットのほうに座るべきだったのだ。

この時はバスの効率といつこと、もあってロンドンから日帰りにしてしまったが、リバプールに泊まる余裕があるならもちろん泊まつたほうがいい。ネットで見ると、最近のグランドナショナル開催は1、2日目(グランドナショナルは開催3日目)にもコースウォークが設定されており、グランドナショナルのコースに沿って内馬場を歩けるらしい。もちろんグランドナショナル当日も可能なだけが、競馬場の隅々まで見るためには2日あつたほうがいいだろう。もちろんリバプール観光を絡めてもよい。

駅から競馬場までは徒歩で15分ほど。当時はすこい田舎の人も少ない障害開催にやつてきたと

いま調べると片道2時間半と出るのだが、当時乗った列車がもつと停車駅の多いタイプだったのか、3時間半くらいかかったような気がする。たぶんかぶかシートのファーストクラス、しっかりとしたテーブルも付いていて快適な旅だったのを覚えている。

当時はまだ本格的に旅打ちはしていなかった頃で、ネット情報もいまほど無かつた。ただBHAのサイトで開催日、ナショナルレイルのサイトで時刻表は確認できるので、出向いた次第である。

は編成によつて多少の当たりはずれもあるが、それもまた樂しみのひとつだ。ターミナル駅には売店もたくさんあるから、駅弁のように買つて鉄道旅を楽しむたい。

筆者がプリツトレイルバスを満喫した最初は、2005年のことだった。まず行つたのがウスター競馬場。Worcesterは「ウオスター」が正しいような気がするが、ウイキペディアにカタカナ表記をウスターとされていたのでそれに従うことにする。